



文：井上英樹
Text: Hidaki Inoue

写真：齊藤有美
Photographs: Yumi Saito

- Explore the regions -

町の誇りをひもとく

日本各地に数え切れないほどの祭りがある。祭りは人の思いをひとつにする。だから人を惹きつけるのだから。

毎年10月7日から3日間、長崎の諏訪神社ほかで行われる「長崎くんち」は荘厳な御神幸（祭礼）と国際色豊かな奉納踊が人気だ。奉納踊を披露する当番の「踊町」は長崎市内に59か町あり、全町が7つの組に区分されている。奉納踊を出す当番は7年に一度。気合が入らないわけがない。諏訪神社の吉澤稔さんは「祭りが近づくと、町がひとつになつていく」と言う。くんちの最初の行事である「小屋入り」（6月1日）から、町の人たちは秋の本番に向けてそわそわしてくるそうだ。「くんちは大切な神事のひとつ。子どもからお年寄りまで、一緒になつてつくり

ます。実は小屋入りのずっと前、当番町の引き継ぎ式（前年の12月1日）から、町のみなさんはくんちのことを考えているんですけどね（笑）。

くんちでは踊町が演し物を披露する。庄巻は諏訪神社の踊り場で奉納される曳き回しだ。大きな船を男衆が押ししたり、曳いたり、回したりと、変幻自在な動きは人々を熱狂させる。「年々、動きが派手になつていて、私はハラハラして見えています」と言うのは、「岡田造船所」の岡田耕一さん。三代続く船会社の棟梁で、祭りを使う船を手がけている。造船所にある船は補修後、稽古に使用され、本番前に飾り付けが施され、お披露目するという。くんち当日に疲れた表情や姿は見せられない。奉仕する人たちは走り込みをしたりして、体をつくるそうだ。「祭りは町の人の誇り。船造りを通して町に還元したいですね」。たくさんの人の思いが重なる長崎くんちは、秋に本番を迎える。

Tastes of JAPAN by ANA

ANAは地域とともにまだ知らない日本の魅力を発見し国内外に広くお届けします。この取り組みに関しては専用WEBサイト(www.ana.co.jp/ja/jp/tastesofjapan/kyushu/)をご覧ください。九州の観光情報は九州観光推進機構の旅ネット(www.welcomekyushu.jp/)でも紹介しております。9月号からは中国・四国エリアの魅力を発信します。どうぞお楽しみに!

長崎市への翼

東京(羽田)、大阪(伊丹)他からANA便で長崎空港へ。空港からクルマで約50分。



①長崎くんちは諏訪神社の秋季大祭。②諏訪神社からの眺め。石段下の石畳が奉納踊の舞台となる。③岡田さんが初めて手がけた船のスケッチ。先人の船からイメージを膨らませ図面に落とし込む。④白木の船と黒く塗装した唐船。船に装飾を施して本番に挑む。⑤長崎新地中華街。くんちも含め長崎は中国文化の影響が濃い。⑥稲佐山展望台からの眺め。1000万ドルの夜景ともいわれる長崎市街の好展望地。⑦「岡田造船所」のみなさん。「祭りの日は息をつく暇がありません」と岡田さん。

長崎商工会議所内 長崎伝統芸能振興会 tel.095-822-0111

長崎県 長崎くんち

